

第4回とやま未来創生産学官連携推進会議における主な意見

(令和2年3月25日 開催)

- ・ コロナウイルスによる影響がある中、コンソーシアムの活動は可能な限り前倒し、中間成果をプレス発表していただきたい。
- ・ 定期的に産業化を図るための意識改革を実施している。学長主導のプログラムもこれまでは個人の研究であったが、オール富山で新規の人も入れて実施している。今後その成果も出てくると思います。
- ・ 一番印象にあるのが「産業」の顔（側面）が見えていない印象。大学と産業界は単なるお付き合いではなく、チームとしてしっかり連携したい。
- ・ 最近のコロナウイルスの影響により企業での研究開発について見直しが入り始めているため、早期に収束して早く元に戻ってほしい。
- ・ 数十年来、政府系機関としてコンソーシアム事業に携わっており、ノウハウについて反映をさせていければと考えている。各論で言えば、富山県立大学や薬事総合研究所に研究支援として人材も派遣しており、こうした人材面においても貢献していきたい。
- ・ 各分野コンソーシアムの取組みについては、大変きめ細かい仕組みができつつあると思う。これを更に発展させるためには、例えばコロナウイルスに効くと言われるアビガンは、30年以上前に富山大学で開発されたものであり、こうした例を踏まえると、今後とも大学も産業界も積極的に治験に参加することが重要であり、商品化に努めていくことが大事。
- ・ 薬の開発は数十年かかると言われる一方で、簡単にできるものは、すぐに新しいものが出てきて移り変わりが早い分野であり、スピードと研究の深さが問われるものが多いと思うので、様々な機関が連携して取り組んでいくことが重要である。
- ・ これからの人口減少社会を迎えるにあたっては、優秀な人材確保が重要。その意味では、このコンソーシアムの人材育成にも期待している。資料のとおり、サマースクール参加者のうち3名が県内企業の内定を得られているということは一つの成果。今後奨学金返還支援制度などの面からも引き続き県からの支援をお願いしたい。
- ・ アルミコンソーシアムについては、新たなテーマとしてアルミのリサイクル技術が見えてきている。県内企業には優位性のある企業が揃っており、県の強みになる。
- ・ コンソーシアム参加の学生が県内就職を希望していると聞いており、コンソーシアムの取組みは、人材が県内に定着する意味においても効果があると考えている。
- ・ 各分野のコンソーシアム形態が多くなってきているが、近年は1社の力では乗り越えていけないような時代である。取組みが進むには、技術の目利き役とコンソーシアムに落とし込むことができるコーディネーターの役割が重要である。
- ・ 大学交付金については、他県では厳しい内示結果であったと聞いている中で、富山県は昨年より8.5%増加しているのは良い結果と受け止められる。ただし、今年はし

っかり実績を出さないと再来年度は国の交付金はいただけないと考えており、これまで以上に厳しく運営したいと考えている。

- ・コンソーシアムの取組みとして、短期的なものとしては医薬品製造技術の向上に向けた取組みがあるが、昨年県からの支援で連続生産機器が導入されたので、4月から薬業連合会と一緒に勉強会するなど、様々なところで啓蒙活動も進めている。中長期的には、鼻から投与してインフルエンザワクチンの力を強めるような研究開発も着々と進行している。
- ・県内企業への支援機関として、昨年度整備したオープンイノベーションハブなど大型の試験研究施設や、ヘルスケア製品開発棟として人の快適性を評価する支援施設を整備している。これらの設備を活用していただき、アルミ分野やヘルスケア分野の研究における「オープンイノベーション」を推進し、今後も支援を強化していきたい。
- ・くすりコンソーシアムについては、5年経過時に自走していけるようにしていきたい。また、ヘルスケア分野は、附属病院においてヘルスケア専門の教授も配置したり、リハビリの教授も就任したりしていますが、在宅リハビリテーションについても今後のターゲットとなってくる。リハビリ現場では、軽量なアルミ技術が必要な場面もあり、今後は大学が待ちの姿勢ではなく、企業に製品化を逆提案するような姿勢で取組みを進めていきたい。
- ・現実の問題に対応するためには、これまでの研究論文を精査したり、学生やトップレベルの外国人材を巻き込んで対応を進めている。今後とも一生懸命取り組みたい。
- ・アルミコンソーシアムについては、4つのプロジェクトについて計画通り進むよう大学としてもアドバイスしている。令和2年度の次世代人材育成の実施についてですが、学生はどの企業が何をやっているか中々承知していない。来年度はアルミ関連企業の見学と実習を中心に人材育成を進めていく予定としている。
- ・3つのコンソーシアムの取組みが相互に有機的に連携することが重要。例えば介護というキーワードで、在宅で軽い素材が必要ということであればアルミ分野の技術に期待がかかる。また、くすりの容器などでも安定性や軽くて丈夫なものなどのニーズもあり、素材としてアルミが活かせる可能性を秘めている。今行っている3つのコンソーシアムについては、こうした関係性が見えていないと考えており、本日のこうした機会を活かしてコラボレーションしてける可能性があると考えている。